

クラス番号	332	担当教員名	片山 善博
テーマ	福祉の人間学		
著書・論文 研究課題等	<p>著書 単著：『差異と承認』創風社（2007）、『生と死の倫理-「死生学」への招待-』DTP（2014） 共著：「源氏物語を<解釈>するとは」『新時代への源氏学 架橋する<文学>理論』竹林舎（2016）、 「承認論から見た遺族ケアの哲学的考察」『B 型肝炎被害とは何か』明石書店（2019）、 「人間のいのちの尊厳を考える」『スポーツと遺伝子ドーピングを問う』晃洋書房（2021）、 「他者との共生」『ポスト新自由主義のビジョン』農林統計出版（2022）など</p> <p>最近の研究課題：福祉の哲学、19世紀の美学思想</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：			
<p><目的、内容、方法等>：</p> <p>☆医療も福祉も究極的には、「人間」を探究する「人間学」に行き着きます。医療や福祉の対象となる「心」や「身体」、あるいは「両者の関係」のあり方は、心身問題として古代から現代に至るまで多くの議論がなされてきました。また対人ケアの基礎となる「他者の理解」、「自己と他者との関係」についても、多くの議論がありました。近年、医療や福祉の領域で注目されている「解釈学」や「現象学」もこれらの議論の上に成り立っています。私たちが感受している「異なる世界」はどのように「解釈」されうるのか、みなさんと議論しながら、考えていきましょう。</p> <p>☆内容としては、「生命倫理」や「ケア倫理」に関する話題が中心になりますが、書物だけでなく、具体的な他者との関わりを通して、より根源的な、人間の「生」と「死」の問題にまで踏み込んでいきたいと考えています。</p> <p>☆文献講読と報告そして議論がセットになります。読む力(解釈する力)を身につけることがまずは大切ですが、報告や議論を通して、読む力も高まっていきます。文献は、臨床哲学や生命倫理に関するものが挙げられますが、ゼミの初回にみなさんと相談して決めましょう。報告については、15～20分程度を想定しています。それを受けて、ゼミのメンバーで議論をします。議論ではさまざまな「問い」立ての練習をします。この練習は、物事を深く考えていく上でとても有効です。また、「発表者が、なぜこの問いを立てたのか、こうした問いを立てることによって、何を語ろうとしたのか」を考えることによって、「問いそのもの」を共有し、議論を深めていくことができます。</p> <p><授業計画>：</p> <p>☆報告者は、報告内容についてのレジュメを作成し、各回1～2名の割り当てで、報告します。ゼミの人数にもよりますが、前期と後期に、1回ずつ（場合によっては2回）発表をすることになります。議論の振り返りとして、各人、次回までに600字程度のコメントを書いてもらいます。自らの意見を簡潔に文章化することがねらいですが、簡潔な文章化は、卒業した後も、仕事で大変役立つと思います。また、適宜、映像文献を用いたり、ゲスト講師を招き、フィールド調査等も行いたいと思います。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>☆ゼミを進めていく上で、参加者間の相互コミュニケーションがとても大切になります。対話や議論を通して自己形成はされていくものと考えます。異なる意見を尊重しながら、自己を深めていけるよう積極的に参加をお願いします。</p>			